

○議長（白石 幸喜君） 7番、上米良玲君の質問を許します。

○議員（7番 上米良 玲君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 7番、上米良玲君。

○議員（7番 上米良 玲君） それでは、人口減少問題と商工業支援について、村長に質問をさせていただきます。

本村では、第2期西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、人口問題に取り組まれております。

その中で具体的施策として、お付き合い対策事業、結婚世話人会組織の結成、お試し滞在住宅の整備、空き家の利活用、社員住宅等整備事業、コワーキングスペースの整備、関係人口の創出事業、移住定住コンシェルジュの設置、住宅整備の検討などが挙げられております。施策の中には、目標値を達成しているものもあれば、実施されてはいるが施策そのものが動き出しているものなのか、村民の目線からも分かりづらいものもあるのではないかと考えております。

人口減少は、地方から始まり都市部へ広がっていくとされ、若い世代が東京圏に流出しているほか、出生率が低下していることが原因ではないかとされておりますが、本村での人口減少についても、急激な減少こそ見られておりませんが着実に減少の一途をたどっている状況にあるのではないかと考えております。

それらを踏まえ、本村ではすまいる課を立ち上げ、移住定住対策などに積極的に取り組まれているところではありますが、都心を除く国内全ての自治体において、同様に人口減少対策の1つとして移住定住対策に力を入れており、人の取り合いになっている状況下にあると考えております。移住定住の条件として、毎日の生活を快適に過ごすための環境や条件などが含まれておりますが、やはり利便性のよい地域が優先順位として、移住先の候補となっているのではないかと考えております。

人口減少による影響は村内の様々な分野に及んでおりますが、本村の賑わいと働く場として村民の生活に欠かすことのできない商工業においても大きな問題となっております。職種によっては、人口が売上げに直結する事業所もあり、売上げの減少は事業の継続や事業承継などにも大きな影響を与えるだけでなく、村民の生活にも直結してくるかと考えております。村内においても小売店や宿泊業などの閉店により、地域の方はもとより村外からのお越しの方々にもご不便をおかけしている状況ではあります

が、事業の継続をするのにもお客様があってこそその商売ゆえに厳しい状況下にあることは言うまでもなく、売上げの減少していく現状において、頑張っ営業されている事業所もあるのが実情ではないかと考えております。

商工業支援につきましては、これまでも景気対策としてプレミアム付き商品券の発行事業や商工業振興事業補助金など、村内商工業の振興・地域経済の安定化などに大きな役割を果たし、事業への意欲にも繋がってまいりました。

しかしながら支援事業の有効期間においては効力を発揮するものの、事業継続の打開策にはなっていないのが現状ではないかと考えております。村民の生活を支える事業所の安定こそが村の活性化や働く場所につながり、事業の継続にも大きな影響を与えると考えております。商工業の支援について、何らかの対策が必要不可欠ではないかと考えております。事業の経営についてはそれぞれの事業所の問題ではありますが、村民の生活や村の活性化を考えると1事業所の問題ではなく、行政も一緒になり本村の未来のために知恵を出し合い、取り組んでいくべきだと考えております。

人口減少問題と商工業支援について、村長の考えを伺いたいと思います。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 7番、上米良玲議員から質問のありました人口減少問題と商工業支援についてお答えをいたしたいと思います。

その前に一般質問の本日の議会でございますけれども、午前中の予定だったんですけれども3時からということで急遽変更いたしましたことを心より、ありがたく思っております。そして、このようにそのような中でもですね、たくさんの皆様方に傍聴に来ていただきましたことも、感謝申し上げたいと思います。

それでは、本村では第2期西米良村まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、基本目標であるかりこぼうずと1,000人が笑う村の実現に向けて、人口問題・産業・生活といった政策目標を定めております。その中でも人口減少問題につきましては、深刻な担い手不足、伝統文化やコミュニティの維持が困難になることなど、村の将来に大きな影響を与えることから、強い危機感を持っているところであります。令和5年度にすまいる課を設置し、部局横断的に議論や連携をしながら、移住定住促進の施策を進めているところであります。また、商工業の後継者問題につきましては、議員の

指摘のとおり経営者の高齢化が進み、後継者の確保が喫緊の課題となっております。

こうした中、商工会が令和4年度に事業者及び空き家店舗の所有者を対象に実施したアンケート調査によりますと、後継者がいないと回答された方の割合は56.5%という結果でありました。一方、将来に向けて事業承継を検討されている方は、回答者全体の約1割弱いらっしゃるということが分かり、承継者・承継先のマッチングや専門家と連携など支援を求める方が一定数はいらっしゃる結果でありました。

事業承継につきましては、既存事業者が保有する貴重な経営資源やノウハウの散逸を防ぎ、地域の財産として事業を継続させるための手法として、大変有効なものだと認識しております。その方法につきましても、これまで親族に承継するケースが多くを占めていましたが、近年は親族ではない従業員への承継やその人柄や事業への思いを軸に、第三者への引き継ぎ形態も増えており、まずは経営者の皆様に様々な事業承継の方法があることを知っていただくことが重要であると考えております。

商工会では、宮崎商工会議所内の事業承継引継ぎ支援センターの専門家と連携をして、事業承継に関する意見交換や個別の相談、チラシ配布を行うなど、普及啓発に取り組まれております。廃業を考えている方であっても、早期の後継者探しを広くPRすることにより、事業を継続できる可能性はございます。ただ、一般的な事業承継の手続には弁護士や中小企業診断士などの専門家を交え、計画書の作成から企業価格の判断、相手方広報先の選定条件交渉を経て契約締結に至るまで長い期間と多額の費用を要します。

本村としましては、経営者の高齢化が進んでいく状況を鑑み、より多くの方の円滑な事業承継が進むよう、商工会と緊密な連携を図りながら、事業承継に係る費用の一部を補助する制度等の創設につきましても前向きに検討をしております。

あわせて、人口減少社会であっても、持続可能な村づくりを進めていく必要がございます。地域の方々と様々な関わりを持つ関係人口の創出と拡大が地域の活性化や地域づくりの担い手確保にもつながります。そのため、本村ではさらなる関係人口の拡大を目指し、次年度からは西米良四季祭りの開催をはじめ、全国の西米良ファンをターゲットとしたSNSを活用したオープンチャットの開設、さらには地域おこし協力隊になる前に村で暮らしを体験していただくためのお試し地域おこし協力隊などにも

力を入れてまいります。

また、令和7年度は、令和8年度から5か年計画となります第3期の総合戦略の策定年度でもありますので、これを機会として交流業や宿泊業の皆様にとどのような支援が必要なのか、どのような業種を残していく必要があるのか、また新たに必要となる業種はないのかなど、十分な協議を行いながら活力のある村づくりの方向性を示してまいります。

以上申し上げまして、上米良玲議員の質問に対する答弁とさせていただきます。

○議員（7番 上米良 玲君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 7番、上米良玲君。

○議員（7番 上米良 玲君） 先ほどの村長の答弁の中にもありましたが、交流人口を増やしていくということはですね、本村の商店街にとりましても、観光業の施設にとりましても、大変有意義なことだと思っておりますが、村所の特に商店街とかはですね村民の生活に欠かすことのできない事業者さんが多数在籍しております。そのような中でですね、外貨を稼ぐ事業所であればおのずとですね、人口が減ってきてもある程度売上げを伸ばすことができますが、なかなか村民の方に対する店の場合はですね、人口に比例するものですから売上げがなかなか伸びていかない。先ほどアンケートの中にもありましたが、後継者はいるのですが、なかなかその売上げが伸びないことがですね、ネックになって事業承継に至っていない、踏ん切りがつかないという事業所さんもあることも事実であります。なくてはならない商店街ではありますが、それをどうしたらいいものかというのはですね、なかなか事業所だけでは考えていくのが厳しいと思います。先ほど私の質問の中にもありましたが、行政とですね事業所と一緒に、今後の商売の在り方ですね、そういったものを検討していく必要があるんじゃないかなと思っております。

村長がですね就任された折にですね、各地区を回られて座談会をですね、開催していただきました。まず、村民の声を聞くということはですね村政につながることだと私も思っておりますので、できればですね、今回も傍聴のほうにですね各種団体の方がお見えでございますが、村内の各種団体の方とですね、意見交換会の場を設けていただいて、これからの西米良村の在り方というか、そういったことを議論していただければですね、1つでもヒントになるようなことが出てくるんじゃないかなと考えて

おります。

先ほど言いましたが、次年度、令和7年度でなんすかね。令和8年度からが総合戦略の更新の年となっておりますのでちょうどいいタイミングではないかなと思っておりますので、そういった計画ができないものかをお聞かせ願いたいと思います。

○村長（黒木 竜二君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 村長。

○村長（黒木 竜二君） 先ほどの話でありますけども第3次総合戦略についてしっかりと議論し合いながら、各事業者の皆様方とまたいろいろな問題解決を図るための会議等も含めてですね行ってまいりたいと思います。

それとやはり人口が減れば、既存の商売をしてらっしゃる方の売上げは必然的に下がるというのはもう明らかでございます。そのような中で先ほども申しましたけど、以前は、交流人口の増加をしっかりと図るということで、観光的な施設をどんどんどんどん広げていってそしてお客さんに来ていただくというような関係を行ってまいりましたけれども、そこからですね、交流人口、すいません、交流人口の増加を図っていくということだったんですけど、そこからやはり西米良のファンになっていく方々の関係人口をしっかりと創出していくと、先ほどの宮崎大学との連携協定もそうなんですけれども、やはり若い世代がこの西米良に来ていただいて興味を持っていただく。興味を持って、もしかしたらこの問題、様々な問題が起きているところを見ていただいて、その問題を何かしてあげたいというような、そういう学生さんもたくさんいらっしゃると思います。そういう問題を提言を行いながら、関係人口を西米良に何かをしてやりたいという方々をたくさん増やしていくと、そういうことによってまたそういう人口をどんどんどんどん増やすことによって、新たな産業といたしますか、既存でしっかりと今定着していただきながら、西米良の村民の方を守っていただくような商売をしていらっしゃる方も、そこに少しでもですね売上げが上がるような体制とかも構築できたらなと考えております。

その部分につきましても、総合戦略の話合いの中で様々な意見を踏まえながら、これからの計画に盛り込んでいきたいと思っております。

以上です。

○議員（7番 上米良 玲君） 議長。

○議長（白石 幸喜君） 7番、上米良玲君。

○議員（7番 上米良 玲君） ぜひですね次の総合戦略の中にですね、そういったことを盛り込んで頂きながらですね、村政のために頑張っていたきたいと思います。

平成の合併の折に、西米良村は自立自走するんだという村民のもとにですね、合併をしなかったわけですから、村民のですねそういった心をですね、振るわせるような事業施策なりをですね、ぜひ検討していただきたいと思います。

以上で質問を終わります。